

(1) 昭和30年3月22日



館山市広報

館山市役所
館山市北條103番地
電話67-68-158番

市行政の振興と健全財政の確立

當初豫算に盛られた諸事業



昭和三十年度の豫算案が十日定期市議會に上程され、田村市長の總算編成と施政方針の説明が行われる。現在審議中ですが、以下市長の説明要旨。

昭和廿九年度における政府のいわゆる一兆円豫算があつて、本市の窮屈せる赤字財政の現状のもとに編成された昭和卅年豫算は、馬鹿じやくを斬る必要がありました。しかし、この豫算は敢て馬鹿じやくを斬る必要がありました。すなわち限られた歳入に対する、給與費・義務的経費及び臨時の経費の増嵩に對照し、度豫算は取て、馬鹿じやくを斬る必要があります。そのためには、著しく経常費的経費及ぶ臨時経費の引締等能う限りの考慮を拂ひに最少なります。

豫算編成方針

一、現行の税財政制度を前提として年間の歳出規模を策定し、財政規模の壓縮によつて極力赤字克服に努める。

二、職員給

費・義務的経費・行

政費は最少

限度額を計

上、臨時的

のものを除

き追加計上

は極力行わ

れを徴収いたしません

例えば第四期の固定

資産千三百骨圓の者

の計算は、納期後にお

るようになります。

以上昭和三十年度豫算の

編成と、施政方針の概要

について申述べました。

館山市廣報は毎月全市の毎戸にくばられており、皆様と市政を結ぶ唯一の機關です。今月號から「市民の聲」欄を設けましたので皆さんの知りたいことや、市政にたいするご意見、ご希望等をご投稿下さいまして、ご利用下さることをお待ちいたします。

より諸事業は財政の許す範囲内で重点的に計上し、優先し財源の不確定なものにはその確立をまつて、最大の効果をあける財政運用の

検討を加え、極力節減を圖ることとした。以上の方針で編成した三十年度一般會計豫算は歳入歳出とも、二億二千五百四十三万三千百三十円に對しましては、二千五百四十二万一千六百八十六円で、昭和二十九年

度當初豫算第一億六千七百九十一万七千九百六十四円に比し、五千四百五十四円三十七百二十二円の増

となつております。

しかしこれは舊市のもの

財政規模との比較であります。

また、舊村分を加えた

ほぼ年間所要額の確定し

た十月末の二億四千五百九十六万四千八百二十一

円に對しましては、二千

三百五十四万三千百三十円の減となります。

このように豫算編成の基

である歳入においては著

い事情の變化のない限

りほど限界点にたつした

ともいふべきで、そこに

何等の伸縮性がないので

できる限り財政の健全化

を図り、その再建整備を

し均衡財政を堅持して一

日も早く自主的財政の確

立を急務するものであります。

何等の伸縮性がないので

できる限り財政の健全化

を図り、その再建整備を

し均衡財政を堅持して一

日も早く自主的財政の確

立を急務するものであります。</p

